

令和4年度 第3回北海道 Society5.0 推進会議
「データ利活用ワーキンググループ」 開催概要

1 日 時

令和4年11月16日（水）13:45～14:45

2 実施場所

かでの2. 7 730会議室

3 出席者

別添「出席者名簿」のとおり

4 議 題

別添「次第」のとおり

5 議 事

(1) 議事1 本日の会議について

・事務局（北海道）から説明（資料1）

(2) 議事2 令和4年データ利活用ワーキンググループ取りまとめ

・事務局（北海道）から説明（資料2）

(2) 議事4 意見交換

※発言の内容によって分類しているため、発言順序は順不同になっています。

<データ連携基盤について>

- データ連携基盤を作って何をやるかが重要。
- 連携基盤を市町村も立ち上げたときに、どう棲み分けるか。
- 一般的にデータ連携基盤に限らず、システムを繋げるというのが、すごく難しい作業というか設計になるので、データ連携基盤同士をどう繋ぐかという技術的部分には興味がある。
- FIWAREのような標準化されたプラットフォームを使うのも一つの手。
- データ取得のAPIのほかにデータ連携のAPIみたいなものをあらかじめ設計しておくとなんか使いやすくなる。
- できるだけスモールスタートで、民間のクラウドサービスを使って大きな費用をかけずに試験的にやってみて設計を考えるような進め方で無いとなかなか難しいのではないかな。
- データ変換機能については国が用意しているブローカー機能「ORION」みたいなものを実装するが、我々が思っているようなうまい繋がり方はしない。
- 最初はデータとサービスを1対1でもいいので何かしらAPIで繋ぐイメージをしつつ、それを広げていくイメージがいいのではないかな。
- どういった形で市町村と道庁のデータ連携基盤を繋げるかということも、今後詳細を話させていただきたい。
- データ連携基盤をやるにしても、データを鮮度良く保つことが重要。そのために事務局からの説明や人材育成などの準備をしっかりとしておく。
- データ連携基盤を作るときに「箱」にばかり注力して入れ物だけできあがるというのはちょっと注意が必要。
- ローカルルールで作ってしまうとグローバルルールが出来たときにデータ変換がうまくいかずにインポート等が出来ないと無駄になってしまう。データの互換性をしっかり考えなが

ら構築する必要がある。

- データをオープンデータにするからデジタル化してデータ活用するではなく、今の時代はデータをいろいろな形で応用できるように管理すべきということがあり、それをいかに役に立つ形でオープンにするというのが次にある。オープンにするからデジタル化しようという話では無い。
- この先、行政も人が足りなくなりリソースも予算の足りなくなる中で、できるだけ効率的に余計な手間暇をかけずになにをしたらいいのか、本当に効果のあるところに注力していくことがデータ利活用の根幹。
- 鶏卵のどっちが先の話と、具体的に何がいいことがあるのかというところが、なかなかモヤモヤとした中でも、今回産官学で皆様方に参加していただいて、いろんな角度からやっぱりこれって意味があるよね、やっていくべきだよと、そういう意見にまとまったかなと思う。

<データ利活用人材について>

- 資格をどこが発行するか部分に関しては、民間団体もカリキュラムや体系みたいところで協力できる部分はある。
- 資格に関しては民間でもすでにあるかも含めて調査をして、ほかがやっている場合は新しく作る必要は無いので、重複の無いようにやっていくことが大事。
- データ提供側は、提供するデータの鮮度を保つには手間がかかるので後も回しになりがち。他の人のためにデータをちゃんと作って、それがどのような効果として自分たちに返ってくるか、データ利活用人材育成では伝えてほしい。
- 通常業務のアウトプットのさらに下流にデータ公開するという発想があると絶対にうまくいかない。業務フローの一番最初に入ってきたものをそのまま公開するのであれば、自分たちも使うという発想になる。
- 自分たちが使うためにストックしたデータをそのままできるだけソースに近いレアな形で公開されるという発想じゃ無いと、わざわざその仕事をしなきゃ行けないから面倒くさいという流れになる。
- データ公開というものが、余計な仕事として一番下流にあるのか、それとも上流の所にそもそもあるのか、うまく業務フローの中で位置づけることを一緒にやらないと、データ連携基盤だけ作ってもそこにデータが投入されないということになりかねない。
業務フローとデータという観点も考えながら設計を考えていく必要がある。
- データを作るときに、個人情報情報を削除しやすいように削除する列をまとめるなど、できるだけ手間を減らせる頭の使い方を教育する必要もある。

(4) 議事4 今後の進め方について

- ・事務局（北海道）から説明（資料3）